

肱川流域タイムライン防災セッション

○目的

本セッションは、平成30年7月豪雨を受け治水安全度の向上のため様々な取組を実施してきた肱川において、今後の洪水リスクに備えて住民や企業の方が自ら備える力を高めるため、住民・企業・行政の代表者を主体とした、行政プラスαの持続可能な防災活動をどのように築いていくのかを考えることを目的として開催した。

○概要(第1部)

第1部では、まずはじめにこれまで肱川流域において積み重ねてきた行政タイムラインの取組に関する振り返りを行った。

その後、東京大学大学院の松尾客員教授と三重県紀宝町より、タイムラインの持つ目的やタイムラインを用いた取組について基調講演・話題提供が行われた。



○状況写真



会場状況



基調講演の様子

肱川流域タイムライン防災セッション

○概要(第2部)

第2部では、本セッションの開催目的である「肱川流域の住民・企業・行政が一体となった持続可能な防災活動を目指して」と題し、トークセッションを行った。

トークセッションには住民・企業・行政の代表者が登壇し、治水安全度の向上した現在の肱川において、登壇者各々の立場や視点から、懸念点やどういったことに対応していく必要があるか活発な意見交換が行われた。特にタイムラインの普及や活用、防災に関する担い手、そして教育といった今後を見据えた内容が深く議論され、災害を自分事として捉える機会の一環となった。



トークセッションの様子

○グラフィックレコーディング

本セッションでは、第1部・第2部を通して発表された内容を、イラストなどを用いて簡易的に取りまとめる「グラフィックレコーディング」を利用して記録を行い、参加いただいた方々から好評を受けた。



グラフィックレコーディング